



TITLE:

きらめく動物たちの命と海:久保田  
信の白浜だより(その1)

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. きらめく動物たちの命と海:久保田信の白浜だより(その1).  
うみひろも 2011, 74: 18-20

ISSUE DATE:

2011-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180222>

RIGHT:

© 海の生き物を守る会

## 4. 新連載：きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その1)】

久保田 信

### 1 南紀白浜は海の宝の国

- ・ 1人1人が1種の生き物の一生を調べてみよう

新連載をこれから続ける南紀白浜（和歌山県西牟婁郡白浜町）のくぼたしんです。創立90年の京都大学瀬戸臨海実験所に18年ほど勤務しています。よろしくお願いします。

私の部屋には世界地図や地球儀が置いてある。なぜかって？海の星の地球だけど、たくさんさんの国があって、いろんな人たちがそれぞれの暮らしをしていることをいつも思うようにしているからだ。これまでいろんな国へ行って、エクゾチックな生き物や人間に出会ってるし、日本中も30年以上かけて海岸をぐるりとまわって一番好きなクラゲの研究を重ねてきた。そんな経験からいえるのは、南紀白浜は最高の所だ。何が最高かという、様々な生き物たちが人間といっしょにくらしているからだ。これは、かけがえのない宝が目の前にいっぱいごろがっているということだ。山も川も池も、どれも素晴らしい白浜だけど、なんといっても海がすごい！生命の母なる海。

毎日、田辺湾と鉛山湾をながめ、そこに潜む生き物に思いをめぐらす。実際に京都大学瀬戸臨海実験所周辺の磯や浜、近くの漁港へ出かけて、日々に出会う生き物は、その形や色など、どれをとっても好奇心をくすぐり続けてくれる。もしも刺激的な出会いがな



くてもくそんな日はないけど>、実験所の水族館には、覚えきれないほどの動物たちが飼育展示されている。よくわかる説明のパネルもあちこちにある。説明の全部が頭にはいつている人などだれ一人もいないだろう。こうして、毎日が飽きることない多様な自然に触れられることの幸せは白浜のかけがえのない宝のおかげだ。人間はやはり自然の中で生活すべきだ。

だから、白浜に住めるのは幸せだ。てつかずの自然が心を癒し、励ましたりしてくれるからだ。人情もあつたかくて、気候も暖かい土地柄とぴったりマッチしている。おまけに日本一古くて質のよい温泉があちこちにあつて疲れも癒える。心だけでなく、体も健康にしてくれる。小学校の時から傷んでいた右肩だったが、赴任後の数年間、毎日入ったばかりの温泉でそれ以来、完全に直ったというより120%になっている。このように、つきない自然と温泉と人情の町である白浜に住めて、いくらでも自然の勉強をすることができる。

生きるのにとっても大事だと主張したいことがある。どんな生き物でもいいから、かれが一生をどのように生きるのかあれこれ調べてみるのは命の尊さをしかと知れる。君もクラゲ博士になって世界一クラゲのことを説明できる人になろう。貝博士になってもいい。動物だけで140万種ほどがこの星でくらしているのだし、同じ種でも所変われば品種が違うので、どんどんやることは無限にある。一生つきあってもいい、おもしろい生き物をみつけて、末長くおつきあいをしよう。その生き物がどこでどのように生まれ、そだち、何を食べて何に食われ、どんな子供をいつつくって死んで行くか・・・調べてみよう。きっとあつと驚く自然の秘密が、いつまでもいつまでもわいてきて、飽きることなど決してない人生がすごせるはずだ。そして、もっとつつこんで、かれの祖先が、いつどこでどのようにこの星で生まれ、これからどうなっていくか考えてみよう。食物連鎖のなかで、切磋琢磨している、けなげで厳しい姿もよくわかるだろう。

今回はこのへんで、最後に、とっておきの本を紹介しよう。水の中にすむふしぎな生物がわかる絵や写真がいっぱいの図鑑で、小学館発行の「水の生物」。大人から子供まで楽しめる。もう一つは、これはいつもいう癖がついているのだけど、多細胞動物の中で、唯一、何度でも若返れる、不老不死のクラゲのことを日本での100年の研究の歴史を簡潔にまとめた本で、宝の海に生きる最高の生き物だ。それは、「神秘のベニクラゲと海洋生物の歌・・・」。どちらの本も値段が安くて手に入れ易い。そういえば、まだまだ紹介したい、そう、手前味噌の本があるのだけど・・・それは次回に紹介しよう。加えて、生き物や化石の歌もあるのです・・・♪（つづく）

#### \*\*\*\*\*著者プロフィール

くばた しん 1975年愛媛大学理学部生物学科卒。1981年北海道大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程修了（理学博士号）。1982年北海道大学理学部助手、1989年同講師。1992年1月から京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所助教授。同実験所は、1998年4月から同大



学大学院理学研究科、2003 年 4 月から同大学フィールド科学教育センターの所属。無脊椎動物学、特に腔腸動物の系統分類・生態学が専門。日本動物学会▽日本動物分類学会▽日本プランクトン学会▽日本ベントス学会▽日本生物地理学会▽日伊生物学会▽漂着物学会▽沖縄生物学会▽南紀生物同好会▽黒潮貝類同好会▽阪神貝類談話会▽和歌山昆虫研究会▽長崎県生物学会▽海の生き物を守る会などに所属。